

はじめての社会デビュー

対 象：保育園（所）、幼稚園、認定こども園に子どもを入れる保護者 入園説明会
 時 間：30分

ねらい：保護者の不安が大きい時期なので、不安を軽減し、入園に対し、期待がもてるようにする。

進行上の留意点：保護者の不安に寄り添い、入園後の生活の様子を伝えるときは、具体的に保護者がイメージできるようにする。

準備物：リーフレット（早寝早起き朝ごはん・文部科学省で検索！）

その他：2色の付箋

ファシリテーター	時 間 形 態	参 加 者	※留意点 ・準備物
※園からの運営説明などは先に済ませる。 1 始まりの会 ・アイスブレイク ・自己紹介	5 (一斉)	アイスブレイクや自己紹介を通し、気持ちをほぐす。	※短時間で行う。 ※グループ分けは上にお子さんがいる方と初めての方が混合になるように。 ※期待と不安は、表裏一体であることに話し合いの中で気づく。 ※ファシリテーターが話す場合は、資料に基づいて、分かりやすく不安が少しでも解消されることを目的とする。
2 「これから新しい生活が始まりますね。入園（所）にあたって、期待や不安があると思います。それを書き出してみましよう。」	5 (個人)	期待と不安をそれぞれの付箋に分けて記入する。	
3 「グループでシェアすると、新しい気づきがあるかもしれません。ちょっと時間をとりますね。」	10 (グループ)	グループでシェアし、他の保護者の思いに、共感や新しい考えに気づく。	
4 「皆さん、気づいたかもしれませんが、期待と不安は表裏一体。これから入園までできることについてお話しします。参考にしてみてください。」	5 (一斉)	ファシリテーターや先輩ママ、園の先生などの話を聞く。	
5 終わりの会 ・振り返り	5 (一斉)	振り返りで自分の考えを整理する。 園長先生が感想を述べるのもよい。	

はじめての社会デビュー

対 象：保育園（所）、幼稚園、認定こども園に子どもを入れる保護者 入園説明会
 時 間：30分

ねらい：保護者の不安が大きい時期なので、不安を軽減し、入園に対し、期待がもてるようにする。

進行上の留意点：保護者の不安に寄り添い、入園後の生活の様子を伝えるときは、具体的に保護者がイメージできるようにする。

準備物：リーフレット

その他：2色の付箋 メッセージカード

ファシリテーター	時 間 形 態	参 加 者	※留意点 ・準備物
※園からの運営説明などは先に済ませる。 1 始まりの会 ・アイスブレイク ・自己紹介	5 (一斉)	アイスブレイクや自己紹介を通し、気持ちをほぐす。	※短時間で行う。
2 「これから新しい生活が始まりますね。入園（所）にあたって、期待や不安があると思います。それを書き出してみましよう。」	5 (個人)	期待と不安をそれぞれの付箋に分けて記入する。 書いたら、貼り付けて他の保護者の意見を読む。	※大きな模造紙を用意して、書いたら貼り付け、見ながらシェアする。
3 「次のエピソードを一緒に読んでみましょう。」 「きっと、皆さんのお子さんにもこんないいところがあるはずです。入園を楽しみにしているお子さんにいいところをメッセージにして伝えましよう。」	5 (一斉) 10 (個人)	エピソードを聞き、自分の子どもの良さに気づく。 お子さんのいいところをメッセージカードに書く。	※エピソードから自分の子どもの良さを振り返るように言葉をかける。
4 終わりの会 ・先輩ママやファシリテーターの話聞く。 ・振り返り	5 (一斉)	振り返りで自分の考えを整理する。	

こころがほっこり

エピソード

「福島さんちのももちゃん、えらいですね！いつも『おはようございます』って、あいさつしてくれるんですよ。にこにこ笑顔で、うれしくなっちゃう。」

「え～！？そうなんですか？」

「そうですよ～！」

（へえ～、意外だなあ。…よそに行くと、私の後ろに隠れて、「あいさつは？」なんて言っちゃうのに。「にこにこ」かあ…。親の見えないところで、あの子なりに頑張っているんだな。そういうとこ、見逃してたな、わたし…）

…ほめてもらったことを夕食で家族みんなに報告した。

「おっ、えらいな、ももちゃん」

「ももちゃんのにこにこ笑顔で、みんなも、にこにこだね」

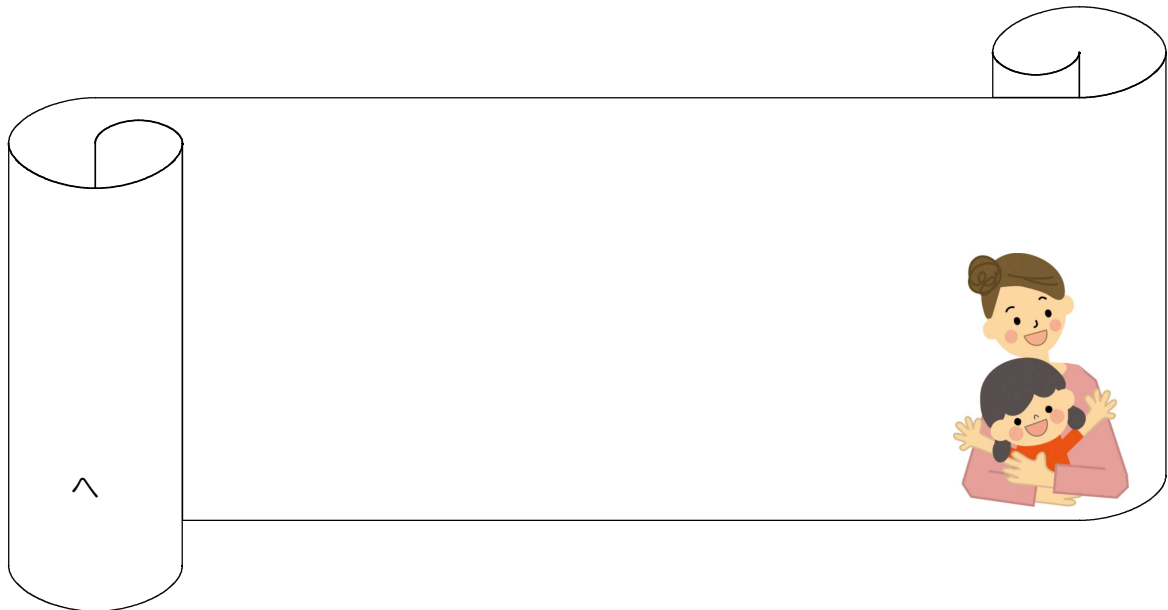
「いつもおうちの人に言われていること、ちゃんと外でできるんだね、すごいなあ」

みんなからほめられて、ももちゃんは真っ赤になった。

最近見ていないくらいのにこにこ笑顔だった。

こうやって、よそのママから教えてもらうのも悪くない。何より、まずは、わたしがももちゃんのよいところをもっと見つけたい。

そして、教えてくれたママのように、よそのお子さんのいいところをほめられるママになって、ももちゃんも、ももちゃんのお友達も、みんなで大きくなれたらいいな。



こころがほっこり



エピソード

「パパ、公園に行こうよ。」

「よし、いいぞ〜。」

今日は、何も予定が入っていない久しぶりの日曜日。よく晴れて、暖かい。

ゆうたと一緒に公園に来るのは、いつぶりだろう？ゆうたの背、少し高くなったかな？

そんなことを考えていたら、ふと、ゆうたの手がほどけた。

「どうした、ゆうた」と、声をかける間もなく、ゆうたは、ブランコに駆けていった。

見ると、ゆうたぐらいの男の子が二人、ブランコの取り合いをして、けんかになっている…。まさか、アイツも取り合いするのか？慌てて俺も駆けていった。

「けんかしちゃダメ。じゃんけんで順番決めようよ。」

息を切らしていると、ゆうたはどうやらけんかの仲裁に入ったようだった。

「けんかしたら、楽しくなくなっちゃうし、危ないよ」

ゆうたは、一生懸命男の子二人を説得している。

「だって、はるとがあとからきたのに」「僕の方が早かったし」

「分かったよお、でも、けんかはだめ。まみせんせいにもそういわれているでしょ」

ゆうたもひかない。

「わかった。ゆうたのいうとおり、じゃんけんする」「じゃんけん、ぽん」

…無事に順番が決まったようだ。

ゆうたはくるっと、俺の方を見て、にーっと笑った。そして、自分は滑り台へと並びに行った。ゆうた、いいところあるな。

俺は…。もしかしたら、ゆうたもけんかに行ったんじゃないかと思った。情けないな。子どもを信じられないなんて。もっと、心に余裕をもてるように、少し早く帰ってくる日を増やして、一緒に風呂でもゆっくり入るかな。しかし、ゆうたも成長したな…。なんだか、嬉しい日曜日。明日からまたがんばるか。

